新生

エホバは雲をもて天をおほひ 地のために雨をそなへ もろもろの山に草をはえしめ くひものを獣にあたへ並なく小鴉にあたへたまふ。　－詩篇　第147篇８～10節－

Who covereth the heaven with clouds, who prepareth rain for the earth, who maketh grass to grow upon the mountains.

He giveth to the beast his food, and to the young ravens which cry.

－PSALM147:8-10－

第47巻
春号
新生会広報

新しい時代の新しいコミュニティ

武藤貴代

幼少期の環境が人の一生に与える影響は大きく、価値観や特性などの基本的な部分は、その時期に確立されるといわれています。自然に囲まれ、そして絵画や本が身近にある環境の中で両親や祖父母などの愛情に包まれながら人間の視覚、聴覚、嗅覚、触覚など外界を認識するための五感、さらにインスピレーションの第六感は育まれていきます。

私が生まれ育った当時の桐生の家の近所には織物関係の工場が多く、豆腐屋やパン屋などがあり、我家のように出入りして毎日ものづくりの人々の中で遊んでいました。

食卓に並ぶものから高級呉服までの工程が日常風景でした。

そして成人して就職した場所は一六五席のホールをもつ書店でギャラリー催事や出版の仕事をしており、そこでは第一線で活躍している小説家、詩人、音楽家、映画監督、画家や彫刻家、書家の展覧会や講演会が実施され多くのものづくりの人々に出会いました。現在の職場まで一〇〇〇を越える展覧会や音楽会、講演会に携わりました。講演後の酒席で熱心に語る作家の言葉や笑顔には人としての魅力がにじみ出てくるようで、その肉声に心が震えました。

東洋思想の一つに人間は大宇宙の一部であり、大自然の一部であるという考え方がありますが、自己の置かれた環境をこの複雑化した社会の中で位置づけておく必要を深く感じます。

通信技術の発達やグローバル化による社会の変化にともない個人情報の保護と活用がされ、家庭や職場でSNSやオンラインツールによりコミュニケーション手段も希薄になりがちです。

日本各地で発生している地震においての危機感には個人差があり対応がまちまちです。今後考えられるあらゆる大規模災害においてスマホやタブレット端末は重要な役割を担っていくことと思いますが、顔が見え手を握り合い声が聞こえる新しい時代に新しいかたちのコミュニティづくりが重要になっていくでしょう。

武藤貴代
一九五三年生まれ。
二〇年間、煥乎堂（書店）にて、ギャラリー、出版業務。
二〇〇三年よりノイエス朝日（朝日印刷工業株式会社）にてギャラリー運営及び出版に携わり現在に至る。

ひと言

原　慶子

復活の爆発的な力

「イエスの死と復活の間の聖土曜日の沈黙。復活の爆発的な力もこの沈黙の時が必要だったのだと思っております。」（聖母の騎士・山口雅稔）

コロナパンデミックの自由を奪われた三年有余を、私は「沈黙の時」だったと思います。この沈黙の時の間に、私たちは復活のための爆発的な力を蓄えました。この三年の間に新生会は、早川博之恵泉園園長を中心として、養護老人ホーム恵泉園の事業転換という大きな仕事に取り組みました。この四月から恵泉園は、有料カルチャーホームとして新たなるスタートをいたします。養護から有料へ事業転換が出来たのは、素晴らしい建築のおかげです。残念ながら早川園長はこれを機に退職を決断いたしました。又本部財務部長が空席になっていました。共に新生会の経営上は重要なポジションなので、私は祈りつつ良き後継者が与えられることを願っていました。神様はコロナという沈黙の時を経て、み心にかなった後継者を決めてくださいました。次期、有料カルチャーホーム・園長には、杉山修一氏が決まりました。財務部責任者は、本間昭人氏が与えられました。お二人とも新生会を理解し、愛してくださっています。共に仕事への使命感に燃えています。

一方、担い手不足が問題になっている介護業務についても、個々の職員の全力投球により人員は整いつつあります。本当に感謝です。常にヴィジョンを掲げ、一人一人が生き生き輝く共同体を目指してきたこと、それはコロナの間も決してぶれなかった。それが新生会が前進する力になっています。

二〇二四年四月より、新生会は原点に戻りつつも、物質主義に傾よってしまった社会福祉事業に人間的な変革精神を吹き込んで行きます。イエスが死に、三日後に復活した時の爆発的な力を信じて、「文化としての福祉の創造」「福祉の芸術化」をより一層深化させた「ケアコミュニティ」を育んで行きましょう。

杉山修一さんは、四〇年以上前、聖公会神学院から教会フィールドワークエデュケーションで新生会との出会いがありそれ以来のお付き合いです。本間昭人さんは、青梅の聖明園の本間昭雄先生とのつながりによってご縁がありました。神のみ心にそった良き働きのために乾杯‼

論壇

人づくり、国づくり

群馬医療福祉大学大学院　教授　田中　博一

フィンランド訪問

一昨年の夏に数年ぶりにフィンランドを訪れた。「コロナ」で渡航が制限され、久しぶりの訪問になった。いつもは日本（関空）からフィンランドのヘルシンキまで約一〇時間弱の飛行時間であったが、今回は一三時間半程の長時間フライトになった。その理由は、ウクライナ戦争の影響でシベリア上空を飛べず、カナダのアンカレッジに向かって北上し、そこから北極海上空を飛び、目的地のヘルシンキに着くルートをとったからだ。航空運賃も約三倍弱に高くなっていたが、戦争の被害にある人々のことを思えばたいしたことではない。

今回のフィンランド訪問の目的は、フィンランドとの共同研究の一環で、幼児教育と特別支援教育を中心にフィンランドの教育内容を調査することであった。フィンランドの教育が世界で注目されたのは、二〇〇〇年に始まったＯＥＣＤの一五歳を対象としたＰＩＳＡ（国際学習到達度調査）で好成績をおさめたことであった。このテストを受けた子どもたちは一九八〇年代に基礎教育（日本の義務教育）を受け、それは「少ない授業時間」、「宿題がない」、「日本のような塾もない」、とくに幼児教育は「遊びが中心」という教育で育った子どもたちであった。「フィンランドの教育はいったいどのようになっているのか?」という疑問があった。

フィンランドの教育と教師

フィンランドのＰＩＳＡ（二〇〇〇）の好成績の要因は、フィンランドの国家教育委員会が種々指摘しているが、まずは一九七〇年代にできた九年制の基礎学校（日本の小、中学校）が始まりである。国は、教育方針とコアカリキュラムを定めるが、地方自治体ごとに運営される教育制度があり、自治体に広範な権限が与えられている。それは、学校別にも言えることで、各学校の特性が生かされる。そこで、基本となることは、教師の質のレベルにある。教員制度の観点からみれば、高度な教育を受け、高い専門性と教養を身につけた人のみが教員になる資格があると考えられている。たとえば、就学前保育・教育において、六歳になると全員がエシコウル（日本の幼稚園で基礎教育は七歳から）に入園する。そこの教員は修士号を持つ教員免許取得者となっている。教師は尊敬され、人気の高い職業である。

また、教育内容と教員の専門性のひとつに個別教育計画（ＩＥＰ）の作成がある。子どもひとりひとりの教育目標とプロセスおよび評価である。この計画は教員が作成するが、親（保護者）、子ども自身そして必要に応じて専門家が参加して作成する。これは、子どもの発達経過を見るだけでなく、教師の教育の在り方を評価するためのものであるとされる。国のコアカリキュラムの目標に「子ども達の社会参加と主体性を強化する」とある。日本で、子どもの教育にその親と当事者の子どもが参加して教育計画を作成することは想像もできない。子どもが自分の意見を表明でき教育に親が参加する、個人の権利と民主主義の理念が根底にあると解する。

福祉国家と女性の活躍および結果の平等

フィンランドは一八〇九年にスェーデン支配下から帝政ロシアの統治下になり、一九一七年第一次大戦後に独立した、現共和国は独立して一〇〇年ほどの国で、日本の国土の広さに約五七〇万人が暮らしている。いまでこそ、北欧の福祉国家およびＩＴ先進国となったが、その道のりは厳しく第二次大戦の敗戦国から復興した国である。戦後復興は経済成長政策と並行する福祉国家形成への方向性における社会構造の変化であるが、とりわけ女性の労働委市場への参加が進み、今日のフィンランド社会における女性の地位向上がある。サンナ・マリン前首相は三四歳の女性でその内閣の閣僚も六〇％くらいが女性であったと記憶する。彼女は販売店のレジ係をしながら大学院を卒業して政界に入った。フィンランドは幼稚園から大学院まで学費が無料（公費）であり、教育における機会の平等に加え結果の平等（修士号を取得できた）である。私が勤めていた大学で育英資金（奨学金）を受給していた学生は幼稚園に就職したが、奨学金（利子付き）の返済総額は約六〇〇万円と言った。昨今の政治家の一連の裏金問題に関する倫理観の欠如は赦せない。詩編第一章一節のよこしまな欲望に従って歩む習性となった罪が彼らに自身の存在意義を忘れさせるのだろう。

特集

地の塩・世の光として、《神の愛》に根ざす協働体であること

「あなたがたは地の塩である。もし塩がそのききめを失ったならば、何をもって塩に塩気を取り戻せようか。その塩はもはやなんの役にもたたず、外に捨てられて、人に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、灯をともしたとき、それをますの下におく人はいない。燭台の上におく。こうすれば、それは家の中のすべての人々のために輝く。このように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」

（マタイによる福音書５章13～16節）

新自由主義の極限において

新自由主義エゴイズムと闘う

原　慶子

この三年有余、コロナ特集として、新型コロナウイルス・COVID19が、私たちの社会と人間性に与えたネガティブな影響と、それに屈せず、人間として《真実》に生きるためにどうしたらいいのか、を問い続けて来ました。そこで気が付いたのは、極限に達した新自由（強欲）資本主義が、根源的な要因としてあるということでした。

コロナパンデミックは世界的に何者かによって仕組まれた物であること、世界中の人々に恐怖心を起させ、ワクチンを強制し続けたこと、変異株を次々作り、ワクチン接種によって人間のＤＮＡをＲＮＡに変えようとしたことなど、今やコロナウイルスの、人間の身体に対する悪影響は全て明らかになっています。しかし制度的には行政指導として、メディアを動員して、世界をコロナ戦争に巻き込み、人々を、ひたすらコロナウイルスから身を護るという〝健康教〟に引きずり込んでいったことは強欲資本主義がもたらした〝罪悪〟としか言いようがありません。人々はいまだもって、小心翼翼、萎縮しています。人々が再び前向きな元気を取り戻す時がくるのかどうか？余程、各人が各々の創造（想像）力を逞しくしないと、強欲資本主義を画策する大悪人たちの企みにはまってしまうかもしれません。

アウシュヴィッツとコロナパンデミック

コロナパンデミックについて、イタリアの哲学者・ジョルジョ・アガンベンは、根源的な考察をしています（「私たちはどこにいるのか？政治としてのエピデミック」青土社二〇二一年）。

ここでは「アウシュヴィッツの残りもの―アルシーブと証人」（月曜社）を通して、その考察を紹介したいと思います。この著書において、アガンベンは「アウシュヴィッツの回教徒」という表現を通して、アウシュヴィッツにおける、人間に対する極限の暴力行為の問題点は、現在にも引き継がれていると言います。回教徒とは「あらゆる希望を捨て、仲間から見捨てられ、善と悪、気高さと卑しさ、精神性と非精神性を区別することのできる意識の領域をもう有していない囚人が収容所（ラガー）の言葉で呼ばれた名にしたがうなら、いわゆる回教徒（ムーゼルマン）である。かれはよろよろと歩く死体であり、身体的機能の束が最後の痙攣をしているにすぎなかった。」アウシュヴィッツの回教徒の姿は、人間が全てを奪われ、真っ裸にされた時、陥る人間の在り様です。アガンベンは、それを「剝き出しの生」と言います。コロナエピデミックもある意味では、人間の社会性を全て剥奪し、感染症を口実に人間を生物学的生のみの存在として扱おうとしたところに、アウシュヴィッツとの類似点があるのです。アウシュヴィッツとコロナパンデミックにおける共通ワードは、アガンベンにおいては、「例外状態」「宙づり」「剝き出しの生」です。アウシュヴィッツにおいても、コロナパンデミックにおいても、人間は、精神性、魂、感受性などを剥奪された生物としての生命、すなわち剝き出しの生として扱われる。剝き出しの生となった人間は、法も適用されないすなわち〝宙ずり〟の存在となる。人間を宙ずりの存在とし、〝剝き出しの生〟にするということは、人間を社会性や文化社会から締め出すということです。アウシュヴィッツは強制収容所という形態に、ユダヤ人を始めとしたナチズムにとって邪魔になる人間を強制収容し、その多くを殺害するか、回教徒にしてしまったのです。徹底的に人間が人間であること、人間性を剥奪し、ただの生物にすることによって死に至らしめたのです。コロナパンデミックは、新型コロナウイルスのエピデミックからパンデミックを「例外状態」としつつも、法律、法令を「宙づり」にし、憲法をないがしろにした、新たな命令事項を生活の隅々まで強要しました。健康と感染に関わるものであるから、人々は自由を犠牲にして、行政命令に従いました。隷従と言っても過言ではありません。そしていつの間にか、人々は自分の意思を忘れ、例外状態を通常の状態として受け止めるようになってしまったのです。

新自由主義エゴイズムと闘う

私自身はコロナ宙づり情況において、意識的に人間性の活性化に取り組んでいました。それは自分自身をさらにさらに内面化することになりました。私の魂の内奥には《神の愛》が微笑んでいました。そして人間と神を結ぶ《閾（しきい）》には《真理》が芽生えていました。真理は《神の愛》です。コロナパンデミックは、神の愛を否定し、人間の〝エゴイズム〟ばかりを増幅させました。〝エゴイズム〟を間違った正義にしてしまったのです。

私は決断しました。新生会は《知の塩・世の光》として、神の愛に根ざす《協働体》であることを目指します。そして私たちの《光》を人々の前に輝かして行くことを‼

屋上防水更新工事完了

誠の園では、このたび令和五年度高崎市老人福祉施設整備費補助金を受けて、念願であった屋上防水の更新工事と五階フロア共有スペースの空調機器の更新を実施することができました。三か月の工事期間では、クレーン車による資材の積み上げや、生活をしているなかでの工事であったため、皆様にはご迷惑をおかけいたしました。

開設して二七年を迎えると建物の外装は経年劣化して生活スペースにも支障が生じます。工事が完了し、新年度からは快適な生活空間のなかで、皆様が日々安心して生活していただけるよう今後も計画的に整備を進めていきたいと思います。

群馬県介護基盤等整備事業費補助金

年の瀬も押し迫った昨年末、穏和の園に高崎市から一通の内示が届きました。一昨年に応募した「大規模修繕に伴うＩＣＴ（Information & Communications Technology）ロボット活用の補助金」です。ちょうど、開設以来風雨にさらされて劣化した屋上の防水設備の大規模修繕をせねばと考えていた矢先のこと。一方、耐用年数をはるかに超えた三モーターの介護ベッドを最新型のものにと数年計画で更新途中。渡りに船、寝るにはベッドとばかりに補助金を申請。パラマウントベッド社のセンサー内臓（ここがロボットですね）ベッドと、高精度の圧力センサーにより呼吸、心拍、睡眠の状態を把握できる「眠りスキャン」のセットを四〇台。さらにケアワーカーが瞬時に情報共有し、素早く対応するためのインカムを合わせて購入していただくことと相成りました。

先行する「誠の園」や「新生の園」のように必要とされる方により即したケアワークを実践できるよう、上手く使いこなして高齢者福祉の向上にお役に立てるべく頑張りたいと存じます。市民県民の皆様、力強い応援に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

春の墓参会

新生会では、去る三月二一日に春の墓参会が無事に行われましたことをご報告いたします。

当日は春の嵐とも言える暴風が吹く日となりましたが、居住者・職員関係者三五名の参加者と共に八幡霊園の霊廟に埋葬されていらっしゃる御縁のありました皆様を偲び、ご冥福をお祈りしました。

昨年五月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置づけを「五類」に以降されたことに伴い、法人で行っている年二回の墓参会は昨年の秋の墓参会より通常に戻りました。墓参後にはコロナ禍以前同様に恒例となっておりました市内のレストランでの会食をし、帰路に就きました。

二〇二四年度 新任職員研修会

三月二六日(火)～三月二八日(木)の三日間で二〇二四年度「新任職員研修会」が開催されました。

今回の研修会には計一二名が参加。各日の午前中には原慶子理事長をはじめとした施設長、職員による講義が行われました。講義の中には職業柄、働く上で起こりやすい腰痛を予防するための体操といった実践をかねたものもありました。

そして一日目の午後は施設見学、二日目と三日目の午後には各施設に分かれてのワークに参加しました。

また、二日目の朝には毎週月・水・金に礼拝室にて行われている「職員朝礼」に参加。共に讃美歌を歌い、お祈りをしました。

三日間の中で新任職員それぞれが感じたこと、学んだことを今後の働きに活かしていただき、新生会の仲間として共に頑張っていきましょう。

腰痛予防のための体操

朝礼に参加

有料カルチャーホームに生まれ変わる《恵泉園》

《恵泉園》は、一九五七（昭和五二）年七月に、社会福祉法人・新生会の最初の事業として開設されました。当時は敗戦から一二年、社会も人々も貧しい状態でした。一九三八（昭和一三）年に創設された榛名荘は結核療養所としての使命を終えようとしていました。先代理事長・原正男は、次なる事業は「老人福祉」にあると認識し、貧しい孤老のために「榛名荘老人ホーム・恵泉園」を創設したのです。一九六三（昭和三八）年に、老人福祉法が制定され、榛名荘老人ホームは「養護老人ホーム」（定員八〇名）となりました。順調に社会的使命を果たし、一九八八（昭和六三）年、ジョージが丘三ホームの一つとして移転新築をいたしました（定員五〇名となる）。その後、二〇〇〇（平成一二）年、介護保険法の施行とそれに伴う、小泉政権の三位一体改革により、養護老人ホームの措置権が、国から市町村に移管（地方分権）されました。養護老人ホームは、介護保険法との狭間で、措置が減少し、定員割れが進行して行きました。その頃から新生会では、恵泉園の事業転換への模索が始まりました。早川博之園長の元、検討委員会が本格的に始まり、二〇二三年、低コストの有料老人ホームに組織変更することにしたのです。

「榛名荘・新生会創業の精神」の中にある「社会の欠陥より生ずる不幸な人々のため」に始められた恵泉園は、新自由主義経済政策による「福祉のビジネス化」の煽りを受けて、事業転換せざるをえなかったのです。この困難な時に、恵泉園と居住者のために全身全霊、全力投球してきた早川園長の心中を想い、私も複雑な思いでいっぱいです。早川園長、本当にご苦労様でした。また途中で、他のホームに移らざるを得なかった方々にも深くお詫びいたします。

《恵泉園》を、「有料カルチャーホーム」としたのは、ジョージが丘三ホームの建築理念が「文化としての福祉の創造」だからです。早川園長は、その理念をくみ取り、ハード面とソフト面において「文化としての福祉」を実践してくれました。「文化」とは、「CULTURE」です。これからの恵泉園は、有料カルチャーホームとして「Culture/Share/Care― 育む・分かつ・支える」すなわち「ＣＳＣ」を実践する共同体として、新生会の一翼を担っていってほしいと思います。新園長となる杉山修一さん、ソーシャルワーカーの新井渓司さん、そしてケアワーカーの人たち、生まれ変わる《恵泉園》をよろしくお願いいたします。

（原　慶子）

有料カルチャーホーム恵泉園

新生会の創設事業である、養護老人ホーム恵泉園は、この三月三一日をもって、六六年歩み続けたその役目を終えました。

そして翌四月一日からは、有料カルチャーホーム恵泉園として、新たな歩みの第一歩を踏み出すこととなりました。

措置居住者の減少から、養護老人ホームとしての維持存続が困難となる中、恵泉園の次なる事業として、ケアハウスや特養等への転換を模索してきました。そうした中で、最終的には低額の有料老人ホームの事業を選択することとなりました。

この背景としては、新生会が養護老人ホームに始まり、旧厚生省のモデル事業として始めた軽費老人ホームＡ型榛名春光園、県内民間第一号の特別養護老人ホーム榛名憩の園をはじめとして、健康型から介護型のホームを必要に応じて建築し経営してきました。新生会では、これらをコンビネーションシステムとして総合活用してきたことに起因します。

時代や制度移り変わる中で、養護の空床利用として始めた契約入所事業は、特養の壁である要介護３問題、月額利用料は問題ないが、入居一時金までは準備できない方などのニーズに答える形となり、待機もあるほどとなり、この事業をベースに転換を進めてきた結果が、有料カルチャーホーム恵泉園となりました。

ただ、できるだけ入居費用を抑えることができないかということをコンセプトにシミュレーションを繰り返し、当然資金面のこともありますが、新旧事業の入れ替えにタイムラグがなく、リフォームを行う時間がないこともあり、できるだけ既存の建物を使用すること安価な設定をすることとしました。

管理費や食事、基本介護サービス費等の考え方は新生の園や穏和の園と同じですが、居室に関してはあくまでお部屋をお貸しするという考えのもと、家賃として費用をいただく方式としています。

また家賃の前払い方式（五年償却で追加料金はなし）を取り入れることで、継続利用される方が、より利用しやすいように設定しています。

お部屋は約一六㎡のＡタイプ個室と約二二㎡のＢタイプ個室を主として、夫婦部屋として利用できる約三〇㎡Ｃタイプを一部屋用意しています。

このほかに自立されている方と、介護保険を利用される方とに料金体系も異なっています。詳しくは、新生会または直接恵泉園までお問い合わせください。

ホームアラカルト

介護付有料老人ホーム 新生の園

ジョージが丘コンサート

三月八日、ジョージが丘で久しぶりのコンサートが開催されました。コロナ期の影響で、外部の方々にいらしていただく機会も久しく、セッティングの段階から懐かしい感じもしています。

当日は「ぶどうの木」という音楽グループの歌や演奏です。ソプラノ歌手に、ピアノ、フルート、ヴァイオリン。尺八の方は、今回は都合がつかなくなり残念でしたが、四名の方々が来てくださいました。

クラッシックから唱歌まで、多くの演目が続く中、歌詞や特性マラカスのご用意もして下さり、一緒に歌ったり、リズムを取る居住者の方々は、終始楽しそうな表情です。

コンサート終了後も、「やっぱりこういう機会はいいね。」「すばらしかった。」「ぜひ、また開いてね。」と称賛と今後への期待も含んだお声が聞かれます。生の歌声、演奏と、皆さんの笑顔が溢れる調和の時間。大事なひと時だと、あらためて感じることができました。

（中澤一夫）

プロの歌声は圧巻

久しぶりの音楽会

ハッピーバースデー

健康型有料老人ホーム マリヤ館

節　分

二〇二四年は、二月三日（土）が節分の日でした。

梅香ハイツでは、マリヤ館・バルナバ館・ウェルカムセンター合同で節分を行います。

居住者さんの有志の方に鬼役をお願いし、職員から一名鬼役を選びます。参加者が集まりましたら、豆まきのスタートです。

普段は物静かな居住者さんも、大きな声で「鬼は外、福は内」と掛け声と共に力いっぱい元気に豆まきをしました。

寒くなくてよかった

豆まきが終わるとセンター食堂にて、参加者全員でお茶受けと甘酒やお茶を頂きながら豆を食べ、歓談してお開きとなります。

「歳の数の豆は、食べられないねぇ」など、他愛もなく楽しい会話をするのですが、年男・年女の話をしていたら、御年九六の年女さんがいらっしゃいました。次の年女の時にもお願い出来そうな程お元気な方です。

これからも、居住される方が、笑顔で元気にお過ごしできるよう、職員一同、精進し各種イベントを企画していきます。

（原孝洋）

みなさんで談笑

介護付有料老人ホーム 穏和の園・桜の園

観梅ツアー

♪白亜の園に風清く♪梅の香匂う丘の上♪の新生会歌に誘われるように、今年も二月下旬に箕郷梅林蟹沢地区に観梅ツアーに行って参りました。

今年の観梅はお天気と相談しながら当日急遽決定されたため、参加者も少なくこじんまりとしたツアーとなりました。しかし、久しぶりの車での外出に皆さんも心弾ませながらフルーツラインを一路梅林へと車を走らせました。

梅林が近くなると所々に梅の花が咲いており、一同益々梅林へと気持ちがはやるばかりです。

そして、いざ梅林に到着すると、見頃を迎えた梅の花が一行を歓迎してくれました。車を降りると、まさに梅の香匂う丘で辺り一面心地よい香りに満ちていました。

駐車場から散策路を通り、所々で記念写真を撮りながら歩を進めると見晴らし台にある古木に大輪を見つけて見入ってしまったり、色鮮やかな枝垂れ梅の花に顔を近づけて香りを堪能したりと、皆さんそれぞれ観梅を楽しまれていました。

榛名颪の冷たい風が出てきたところでそろそろ買い物タイムです。売店に並べられた商品を一つひとつ吟味しつつお目当ての商品を購入し、帰路は白岩観音経由で左手に高崎方面の街並みの眺望を楽しみながら梅の花ともお別れです。春の訪れを感じられた早春のひとコマでした。

（石田健一）

プロマイド風にパシャリ！

集合写真でハイチーズ

介護付有料老人ホーム 恵泉園

居心地の良さで歩み続けます

この春、養護老人ホーム恵泉園として約六七年間、歩み続け大きな役目を終え、新たに『有料カルチャーホーム恵泉園』として生まれ変わりました。今年の二月より恵泉園で過ごされていた一九名の居住者の方々が、高崎市内の養護老人ホームをはじめ、法人内の各施設へ徐々に巣立たれて行きました。

三月末までの二か月間、住み慣れた環境から離れる不安と寂しさを感じている方、移動先の施設に行くことを楽しみにされている方、様々な姿を見守らせていただきました。不安や寂しさは移動された居住者のみならず、恵泉園に残られる方々も同様に感じられていました。

華やかに

園内の様々な行事では、『馴染みの仲間で楽しむのもこれが最後なんだね』と、居住者、職員各々が大切なひと時として惜しみつつ楽しんでいた様子が、昨日のことのように思い出されます。年明けには恒例の新年会、誕生茶話会、お別れ会と開催しましたが、居住者も職員もみんなで一緒に騒ぎ楽しむのが恵泉園！不安や寂しさも吹き飛ばすのが恵泉園！と、そんな雰囲気からも、恵泉園の居心地の良さが覗えます。四月から有料老人ホームとして新たな使命を果たしていくことになりましたが、この居心地の良さは、これからも変わらずに歩み続けて行くことでしょう。

（関口尚利）

晴れやかに

軽費老人ホーム バルナバ館

折り紙の会

バルナバ館では月に一度〝折り紙の会〟があります。

恒例行事の一つである「七夕飾り作り」の時に「一年に一回ではなく一か月に一度、皆さんでおしゃべりしながら折り紙を折るのも楽しいわね」という居住者のひと言から始まりました。

折り紙は、動物、昆虫、花、立体物など簡単に折れる物から難易度の高い物まで種類は様々。指を一本ずつうまく動かさなくてはならないため、やればやる程手先が器用になるそうです。

折り紙、色々

また、山折り谷折りなど色々な方法で折るので、脳を活性化でき、認知症の予防効果が期待できると言われています。

とても自分一人で折れそうにない物も、教えていただきながら一生懸命折り、出来上がった時はとても嬉しいですし、達成感もあります。

この会の中心になって下さっている方は、どういう物が皆さんに喜んでもらえるだろうかと毎回考えて下さっています。まだこの会が始まって一年も経っていませんが、長く続きますように応援していきたいと思います。

（一場寿子）

なかなか難しいわね…

軽費老人ホームA型 榛名春光園

掃き掃除の達人

この冬、春光園界隈では大雪に見舞われ、職員は雪かきに追われました。その中、誰よりも率先して雪かきをする達人が春光園の居住者にはいます。その名は、飯塚邦幸様です。

飯塚様は今回の雪かきはもちろん、普段から春光園に限らず、新生会界隈の掃き掃除も率先してほぼ毎日のように行ってくださっています。

春光園はどうしても小規模セクションであるため、職員の数には限りがあります。そんな中、飯塚様を始め、春光園の事を想い生け花やレクリエーション活動等、様々な活動を自発的に実施して下さる居住者の方が沢山いらっしゃいます。まさに、居住者と職員で作り上げる、春光園なのです。これから先も、素敵な我が家「榛名春光園」は春の光とともに輝き続けます。居住者お一人おひとりに感謝を込めて…。（長坂直哉）

雪かき三銃士

初詣

春光園ではここ数年、コロナの影響により近場での初詣は開催するものの、食事や買い物はせず粛々と行って参りました。今年は辰年、昇竜のごとく気分を一転。フル規格での初詣です。行き先は群馬が誇る「水沢観世音」居住者二八名が参加されました。バスに乗る事四〇分程で目的地である水沢観世音へ到着。

この日は、あいにく気温が低く風花が舞う天候。風も強くまさに極寒。あまりの寒さにお参りは早々に済ませ清芳亭にて湯の花まんじゅうを舌鼓。昼食は、水沢亭で日本三大うどんをいただきました。中でも好評だったメニューは土瓶蒸しです。盃のような器に入れて飲む汁は体を芯まで温めてくれました。その後は、食の駅にて買い物をして、お腹も心も満たされた初詣となりました。

（細山教子）

温かな食事にホッとする瞬間

特別養護老人ホーム 榛名憩の園

泣いた青鬼

今年もやってまいりました、「鬼の日!!」いやいや、「節分の日」です。日頃、鬼の様な職員（ケアに情熱を注ぐ鬼です）めがけ、大きな声で「鬼は外、福は内～」

本日の鬼は、我がフロアーに男性職員が出勤しておらず、意気揚々と新人の女性職員が頑張って鬼に変装。スパッツに鬼のパンツをはいて、アフロの帽子にお面、先輩職員に見定められ、「よし、これで完璧」いざ出陣!!

我がフロアーの居住者は、皆とても優しく、豆を投げながらも「かわいそうだよ」と皆職員思い。それに反して、長年いる職員はここぞと言わんばかりに勢いよく豆を投げ厄払い。そして、その後は、お楽しみのお茶会。さすがに年の数だけ豆を食べるのはとてもじゃないけど、大変なので、皆で福茶を飲み、楽しいひと時を過ごしました。

ちなみに、他フロアーの節分にお手伝いに行った青鬼さん。どこのフロアーでも厄落としの洗礼を受け泣いて帰ってきました。お勤めご苦労様でした。

（今井雅恵）

ごめんなさーい（泣）

鬼は外～♪

特別養護老人ホーム 誠の園

思い出の三倍返し

今年度も振り返ってみるといろいろなことがありました。たくさん笑い、たくさん涙しましたが、本音を言えば一年前のことはあまり覚えていません。というか、昨日の夕飯ことも曖昧です。この時期はみなさんもそうですよね？

三月と言えば榛名の地は名産の梅の花が満開となり、町全体が華やかな装いとなります。ですが、本音を言えば大量の花粉で空は真っ黄色。車も何もかもが真っ黄色でそれどころではありません。ティッシュを探しながら目をこする。朝からくしゃみが止まらない。

『たまったもんじゃない』

さてさて、話を進めましょう。誠の園で行われる行事のなかで、年度の最後を締めくくるのがホワイトデーです。今年はいったいどんな時間を過ごしたのでしょうか…。

そもそもホワイトデーとは日本発祥だそうです。三月一四日に男性から女性へバレンタインデーのお返しというイメージがありますが、どうやら三倍返しが基本らしい。

『たまったもんじゃない』

さて、ほんとうに話を戻して今年のホワイトデーは、「手作りパフェ」を作ってみました。普段なかなか口にするのことのないパフェ。和菓子やおせんべいも勿論人気ですが、やっぱり洋風のデザートは格別です。アイスクリームは意外にも誠の園居住者の方々には大人気なのです。写真を見ていただければわかりますが、どうですか、誠の園の手作りデザートは本気なんです。完売御礼、売切れ御免ということで、次回は何を手作りするのでしょうか…。

茶話会は盛り上がりすぎて、写真を撮り忘れてしまいました。とにかく、来年も思い出せるように見た目三倍、楽しさ三倍、優しさ三倍の誠の園でいきたいと思います。

（小野沢剛昌）

大好評の手作りスイーツ

特別養護老人ホーム エンジェルホーム

春の観梅ツアー

三月一五日、春らしい暖かな日差しに恵まれて観梅ツアーに出かけてきました。

最初に訪れたのは、地元の名店イタリア料理のベルベデーレ。昼食にボリュームのあるパスタと、デザートにプリンをいただきました。皆さん美味しそうに黙々と召し上がられ、あっという間に完食しました。思い思いに楽しめた様子で、お腹も心も満たされたひとときでした。

次は、今が時季の梅の花を見に箕郷梅林へ出発です。車内は眠気に襲われ、会話も少なくなりつつ、車窓の景色にしばしのドライブを楽しみました。目的地が近づくにつれ、景色は梅林へと変化し、皆さん窓の外に夢中です。口々に「きれいだね」と話されていました。

おいしいパスタでお腹いっぱい

箕郷梅林に到着すると、まさに花見日和で、青い空に赤や白の梅がよく映えていました。近ごろは強い風が吹いていたため、花びらが散ってしまったのではないかと心配でしたが、あたり一面に咲く花を見て、ちょうど良い時季に来れたと皆さん喜ばれていました。さっそく車から下りて散策開始です。心地よい風が吹き、気分も晴れやかになりました。

一通り散策を終え、時間も余ったため、今度は河津桜も咲く箕郷梅林内の善地梅林広場に行くことにしました。ピンクに染まる河津桜と黄色い菜の花のグラデーションが美しく、丘からは関東平野が望めました。ゆっくりと過ごした時間はとても有意義でした。

帰り道は昔話にも花が咲き、今回の観梅ツアーは終了しました。私たち職員にとっても楽しい思い出となる観梅ツアーでした。

（野口琴美）

きれいな景色に感動♪

新生会診療所

【伊藤義彦医師より　管理者就任にあたってのご挨拶】

去る二月、前任の鈴木先生より「健康上の理由により、新生会診療所の管理者を続けることが難しくなった。後任をお願いできないか。」と相談があり、突然のことに即答できませんでした。これまで何度か新生会での勤務のお誘いはありましたが、妻と新生会のホームに居住の身、プライベートを保てないからと固辞し、他の医療機関に勤務してきました。しかし、今回は新生会全体の診療存続に関わることであり、お断りできない状況と判断、思案の末お受けすることにした次第です。

新生会診療所は一九九三年竣工、本年六月で三一年を迎えますが、昨年建物の改修や各種整備が行われ、素敵な空間に生まれ変わっています。ここに健康管理部（看護課・リハビリテーション課・医療事務課・医療業務課）が設けられ、非常勤の先生方と共に近隣地域や新生会各事業所の医療をバックアップしています。

また、新生会では労働安全衛生法に基づいた衛生委員会にて職員の皆さんが安全かつ健康に働くことができるよう話し合いの場が設けられています。取り上げてほしいテーマがありましたら、ぜひ衛生委員会委員までお寄せください。

自身は就職・結婚を経て医学の道に進み、主に神奈川県と静岡県の病院で消化器内科を専攻する傍ら、病院の移転・新築や経営再建に取り組んできましたが、妻の健康上の理由から新生会のホームに入居しました。最近は、緩和ケア及び高齢者医療に重点を移しています。

ところで「老年症候群」という言葉をご存じでしょうか。それは病んだ臓器だけを治療しても全体の機能が低下しているため、様々な合併症や精神・神経症状をもたらすことが多い高齢者特有の状態を指します。そのため高齢者施設での医療は、治療以上に看護・リハビリ・介護・栄養管理・精神的ケアなどが大きな比重を占めています。このことを念頭に、新生会診療所でも医療設備が限られた中、スタッフや非常勤の先生方と情報共有を密にしつつ、少しでも居住者の皆さんの訴えに寄り添った診療を提供できればと願うものです。どうぞよろしくお願い致します。

（伊藤義彦）

HALC自然学校

特別企画＆お出かけ自然体験

一月一九日と二月一六日、『明るい天体観測をしよう！』と題して心泉の家を会場に特別企画が行われました。

榛名に隣接する倉渕町から、くらぶちこども天文台の武井亜里沙さんを講師にお招きして、星空や季節の天体、星座や宇宙の話し等を画面に投影しながら頭上にどんな星があるかの説明を受けました。二日間で四八名が参加されました。

二日間ともに晴天だったため、武井さんがご用意くださった望遠鏡で月を観察しました。参加された方は皆、レンズを通して見えるクレーターをスマホに収めて楽しんでいました。

後半は、配布された３Ｄ眼鏡をかけてＴＶ画面に映し出される宇宙の旅を堪能しました。

３Ｄメガネで宇宙飛行

クレーターをスマホでパシャリ

三月八日と一三日はお出かけ自然体験で観梅をテーマに関東三大梅林のひとつ埼玉県越生梅林へ出かけました。今年の冬は暖冬であった為、梅の開花が早く、ツアー当日まで花が咲いているのか心配しましたが三月上旬に寒気が入り、満開のピークは過ぎたものの二日間共に梅の花を楽しむことができました。越生の梅林は地元農家の協力でよく手入れされているようで遊歩道も整備されており〝見やすかった〟と好評でした。越生梅林から車で一〇分程度奥まった所に「黒山三滝」（男滝、女滝、天狗滝の三つの総称）があり、日本観光百選に選ばれるほどのパワースポットにも行きました。

（稲垣仁）

マイナスイオンたっぷりの黒山三滝

梅まつり中の越生梅林

こんにちは　新生会　人紹介

①出身地　②職種　③趣味・特技　④好きな有名人　⑤自分にとって一番の贅沢は　⑥好きな言葉

恵泉園

杉山　修一（スギヤマ　シュウイチ）75

①東京都　②園長　③オートバイ、ドライブ、オペラ・修理　④シュバイツァー　⑤おいしいおせんべいを食べる　⑥あなたの隣人を愛しなさい

エンジェルホーム

今泉　彩香（イマイズミ　サヤカ）22

①高崎市　②ケアワーカー　③推し活をすること　④福山雅治　⑤遠出すること　⑥働かざる者食うべからず

榛名憩の園

永井　香帆（ナガイ　カホ）23

①高崎市　②ケアワーカー　③猫と遊ぶ！・料理　④ＩＭＰ.　⑤服や靴を買うこと　⑥笑顔☺

榛名春光園

佐藤　靖子（サトウ　ヤスコ）42

①前橋市　②ケアワーカー　③ドライブ　④五条　悟　⑤ゆっくりと温泉に入り癒されること　⑥一石二鳥

髙島　楓華（タカシマ　フウカ）18

①安中市　②調理員　③お菓子作り　④ノブ（千鳥）　⑤色んな種類のお菓子を作ること　⑥他者と比較するのではなく、過去の自分と比較する

バルナバ館

星野　晴美（ホシノ　ハルミ）52

①高崎市　②ケアワーカー　③読書、観賞、韓国語　④ＢＴＳ　⑤居心地の良い場所で何一つ制限なく本を読むこと　⑦大切なものは目に見えない

竹内　智子（タケウチ　トモコ）61

①長野県長野市　②看護師　③映画鑑賞　④浜田省吾　⑤美味しいものを食べる　⑥雲外蒼天

ウエルカムセンター

本間　郷子（ホンマ　キョウコ）63

①東京都青梅市
②ケアワーカー
③ドライブ
④ジョニー・デップ
⑤フルーツをお腹いっぱい食べる
⑥感謝

誠の園

中澤　志保（ナカザワ　シホ）22

①高崎市
②ケアワーカー
③影像鑑賞
④ＦＬＯＷ
⑤だらだらすること
⑥無理だったかもしれない。無茶だったかもしれない。でも無駄じゃなかった。

穏和の園

三木　喜貴（ミキ　ヨシタカ）23

①高崎市
②ケアワーカー
③サウナ、筋トレ・野球
④柳田悠岐選手（福岡ソフトバンクホークス）
⑤サウナに入った後、ラーメンを食べること
⑥七転び八起き

法人本部

本間　昭人（ホンマ　アキヒト）62

①東京都青梅市
②財務部事務員
③料理、アウトドア、地元の祭礼（江戸囃子）
④高田純次
⑤休日に朝から食べたいお酒の肴を手作りし、昼呑みする事。
⑥逆風なくして成功なし!!

二〇二四年度睦会

人と人が【直接会って言葉を交わす、触れ合う】という事を大切に、昨年の睦会は野澤前会長の元で活動を行って参りました。様々な行事を再開する中で苦労もありましたが、人と人が直接交わる事の大切さ、温かさを認識する事が出来た一年でありました。また、役員、幹事だけでなく会員一人ひとりに支えられて睦会が存在できると感じました。

先人たちが守り続けてきた伝統をしっかりと受け継ぎ、睦会の活動が始まります。会員の皆様の親睦優和、福利厚生等、充実した企画ができるよう努めて参ります。今年度の睦会をよろしくお願いいたします。

睦会会長　佐野仁久

2024年度睦会役員一同

もうひとりの私㉖

榛名憩の園
ソーシャルワーカー
下平　友規さん

猪突猛進型…。こんなにもこの言葉が似合う男が他にいるだろうか。今回は腰にポーチとバインダーと作業服がトレードマークでお馴染みの榛名憩の園ソーシャルワーカー下平友規を紹介しよう。

大学を卒業後、自宅から片道五〇km離れた障害者福祉施設で働いていた彼は長年の夢である「働きながら米作りをしたい！」を叶える為、地域の消防団に所属していた某園長の紹介で新生会の門を叩いた。その後恵泉園から榛名憩の園に華麗に？異動し、今にソーシャルサービス室に無くてはならない男になる予定である。

タレントの片桐仁似とささやかれる中、仕事では思い込んだら即行動。報告・連絡・相談を置き去りにどこまでも。突っ走ることもいいのだが、みんなと同じ方向に向いていたはずが、一人違う方向に向いていることもしばしば…。常に前を向き全力で突っ走る彼ではあるが、猪突猛進エネルギーに満ち溢れているのは今に始まった事ではない。幼少期時代から近所では有名な悪童で、手に負えない時は反省の為、木に縛り付けられた事もあったとかないとか。高校時代は毎日往復五〇kmを自転車で通い、近所のバス通学の友人と毎日競争をしては、行きは全勝、帰りは全敗な青春時代を過ごしていた。

アラフォーの体に鞭を打ち毎日出勤前に田んぼに出向き、一仕事。かかしたことがないらしい。その為仕事前にはすでに顔が疲れている。強面の顔の為、疲れているのか機嫌が悪いのか正直わからない。

そんな友規さん。家に帰れば三人の良きパパである。休むことなく家事に育児に大忙し。一番下の娘からの晩酌にその日一日を癒す。地域の消防団に所属しながら、黒帯の柔道に毎日二男と共に汗を流す。後先を顧みず、まっすぐに突き進む彼ではあるが、居住者の為に実直に働く姿はなんとも頼もしい。今や榛名憩の園で黒帯を取得し、自然、いのち、平和、芸術に生かされる彼の今後をますます期待したい。

採用情報

ケアワーカー（介護職員）・
調理員 募集中
2025年新卒同時募集！

【就職説明会のご案内】

介護や福祉に興味のある方、お気軽に就職説明会にご参加ください。WEBでの就職説明会も開催しています！

お電話にてお申込みください。
新卒者の方は「リクナビ2025」でも参加受付中です！

リクナビ2025

〈お問い合わせ先〉
社会福祉法人新生会　総務部
大西・關根
電話番号　027(374)1511(代表)

このひと

梅香ハイツバルナバ館
山本栄三郎（やまもとえいざぶろう）さん
（八九歳）

令和六年新春の梅香ギャラリーで山本栄三郎さんの書道展が開かれました。書道は、文字の美しさを表す東洋の造形芸術ともいわれているそうです。山本さんの心打つ美しい書はどのような思いの中で生まれるのか、お話を伺いました。

山本さんは昭和一〇年大阪にて五人兄弟の次男として生れました。お父様が国鉄の職員だったこともあり、その後東京から満州へ。一〇歳の時終戦となり一年後に帰国。生活は厳しいものとなり、朝は納豆売りのアルバイトをして自分の学用品を買う費用にあてたそうです。大学進学を断念し機械関係の仕事に就きました。仕事場は職人気質の方が多くしごかれたそうですが、それをばねに一つの道を究めてきました。二九歳で結婚、二児の父となりましたが、大学進学への夢は捨てきれず、その後中央工学校の定時制へ通いました。夢の実現です。中央工学校を卒業したことがターニングポイントとなり、群馬県藤岡の事業所にチームリーダーとして就任。

書道は藤岡に来てからご縁あって始めたそうですが、よき師と巡り合い修行を積み、書道の講師に推薦されるなど実力を発揮。県展の委嘱作家としても活躍、五四歳の時でした。当時は三～五つの教室を掛け持ちし忙しい日々だったそうです。

平成一一年、最愛の奥様がお亡くなりになり一人で頑張ってきましたが、将来的なことを考え高崎市役所で頂いた施設の一覧表をもとに全施設を見学、新生会の職員の優しい対応に心が定まり、平成二七年バルナバ館に入居されました。

信条をお聞きしました。「とにかく真面目に生きる事、仕事や書を通じて自己中心ではない他者との関わりを大切にしてきた」とにっこり。因みに好きな字は「安」で、「ただ安心というのではなく安らかであること、相手に対して安らかに接していきたい」という願いも込めているそうです。「生きてきて、今が一番幸せではないかと思っている。」その言葉をお聞きし、春風がふと吹いたようにあたたかい気持ちになりました。

ひとの和

株式会社レストランスワン
高崎地区統括営業部長
統括総支配人
大塚（おおつか）　修一（しゅういち）さん

株式会社レストランスワンは群馬県内にウェディング事業、レストラン&カフェ事業、パーティ・宴会事業を運営する会社です。大塚修一さんは遡る事二七年前、結婚式場であるジョージアンハウス１９９７がオープンする一九九七年、オープニングスタッフとして入社されました。当時、就職説明会には数百人の学生がエントリーされているなか、説明会に連日参加されていた大塚さんの熱意が評価され、見事内定を勝ち取る事ができたということです。

入社後は結婚式のサービススタッフへ配属となり、そこでは料理から食器まで、全てにおいてフランス語で話さなければいけない環境でした。そのためフランス語辞典を寝食も忘れるほど読み込み、日常的な会話ができる程になったその努力は私たちの想像をはるかに超えるものであったことと思います。その他に百種類以上あるカクテルの作り方、テーブルマナーなど、お客様のためと沢山のことを学んだ積み重ねが今の大塚さんの礎であります。

大塚さんと新生会とのつながりは、二〇年以上前からジョージアンハウスで開催される睦会の忘年会です。きめ細やかで行き届いたサービスは、まさに大塚さんのホスピタリティによるもの。そのおもてなしの業は、私たちも学ぶことが多くあります。

大塚さんも、原慶子理事長の言葉から力をもらい、睦会の一体感や職員の明るい雰囲気を毎年楽しみにして下さっています。大塚さんが大切にしていることは「言葉」です。言葉とは時に人を助け、時には傷つけることも出来る。だから言葉には十分な配慮が必要ですとお話しされていました。

現在はスワンが運営する高崎地区の統括総支配人としてご活躍されています。お客様、スタッフだけでなくスワンに携わる全ての方々の幸せと結婚式の良さを伝えていく事が自分の使命であると語る大塚さんの姿は、優しさと熱い情熱に満ち溢れ、これからも沢山の方を幸せにして下さることと思います。

文芸

梅香ギャラリー

山本栄三郎さん書道展

舞

竹

荷心香

安

燕

灯り 温もり ほっこり

遊

赴

虚

ケアに生きる（152回）

誠の園
ソーシャルワーカー
佐野　仁久

何となく福祉という仕事に興味を持ち、福祉系の大学へ進学。そして何となく就職した場所が新生会。就職当時は「ケア」という事を深く考えず、福祉系の学校を卒業したからという気持ちでいた自分の姿をたびたび振り返ることがあります。

新生会は「介護」を行うのでなく、誓いの言葉と共に「ケア」を行うことが仕事です。新生会というフィールドは、机の上で学んだことだけでは対応できない人と人とのつながりのなかで、支え合い、分かち合い、育み合い、居住者と職員が自分らしく過ごしている場所でありました。

介護としか考えていなかった当時の自分は座学を学ぶことに躍起になっていました。しかし勉強を重ねれば重ねる程、居住者だけでなく職員の気持ちも分かろうとしなくなり、自分のことだけを考えるようになっていたと感じます。

ケアワーカーとソーシャルワーカーという二つの職種に携わらせていただいた事で、居住者の優しさに救われていたこと、他者の価値観を受け入れること、新生会の職員以外の方々にも支えられて今の自分がいられると感じる事が出来たと思います。

「ケア」とは相手がいて、仲間がいて、支えて下さる人がいて初めて成立ものです。その一部に携わらせていただけることに感謝の気持ちでいっぱいです。

詩歌

マリヤ　シュガー

連綿と映し出される被災地に
　加護と慰めただ祈るのみ
冬なれど窓に燦々降り注ぐ
　この太陽よ届け能登へも
地震の地の瓦礫の中に咲く水仙
　見つめる子らに元気与えませ

笠井　昭次

春三段
春一番にわかにコートの重さかな
むせかえる畳の匂いや春の朝
春闌けて寝覚めの部屋のだるさかな

オーサム

航海で後悔しない旅目指す
忘れないあなたの笑顔いつ迄も
地球人皆が旅人それなりに
頑くなに一輪咲くや冬椿
冬の海航跡白く美しき
暖かな冬を喜ぶ我が体

福田紘晴

春風や百花一斉棒名里
満開の桜花はかなや花吹雪

憩泉

今日もまた抗ガン剤の点滴を
　数えるうちにいつしか眠る
点滴の留置針さす看護師は
　いと慎重に血管捜る

新生日誌

〈1月〉

4日　初朝礼
9日　お散歩自然観察会　10名参加
12日　職員採用試験
15～16日　多摩福祉会へリクルート委員会視察研修　4名参加
19日　はるな自然体験クラブ　屋内自然体験　テーマ「明るい天体観測をしよう！」20名参加
24日　お散歩自然観察会　11名参加
31日　職員採用試験
お散歩自然観察会　4名参加

〈2月〉

9日　お散歩自然観察会　6名参加
16日　はるな自然体験クラブ　屋内自然テーマ「明るい天体観測をしよう！」20名参加
19日　お散歩自然観察会　8名参加
20日　介護労働安定センター令和5年度事業者支援セミナー（報酬改定対策セミナー　1名参加）
22日　穏和の園介護ＩＣＴ機器導入事業入札
マリヤ館Ⅱ・Ⅲ号館内装改修工事入札
29日　お散歩自然観察会　13名参加

〈3月〉

1日　令和5年度水道技術講習会（群馬県産業技術センター　2名出席）
5日　職員採用試験
群馬医療福祉大学　企業説明会（Gメッセ群馬　3名参加）
7日　障害者雇用納付金説明会（ポリテクセンター群馬　1名出席）
就職説明会
8日　就職説明会
お出かけ自然体験　埼玉県入間郡越生町を巡る旅　13名参加
12日　ＷＥＢ就職説明会
13日　高崎市による法人監査
お出かけ自然体験　埼玉県入間郡越生町を巡る旅　18名参加
15日　睦会第2回総会
19日　お散歩自然観察会　9名参加
21日　春の墓参会　38名参加
22日　第5回理事会
評議員選任・解任委員会
第2回評議員会
26日～27日　新任職員研修会

小型陳志援団

－新生会後援会便り－

春光ううらかな季節となりました。皆様からの温かいご支援に、心から感謝申し上げます。おかげさまで新生会後援会は、62年目の新しい年度に入りました。今後とも、新生会の諸事業に後援会を通して皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。
HALCセンター建設のための特別募金累計
16,847,128円（2024年３月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

○個人会員　年間会費　1口　1,000円以上、毎年ご寄付してくださる方。
○法人会員　年間会費　1口　10,000円以上、毎年ご寄付してくださる方。

募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み　振込口座　00160－6－48594　加入者名　新生会後援会
銀行からの振込み　群馬銀行室田支店普通預金0075469　名義　新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ　http://www.sinseikai.org/
E-mail　human-office@sinseikai.org

編集後記

ある有名高校の卒業式での答辞が話題になっていました。知的でユーモアがあり、仲間への想いに溢れた感動的な内容でした。〝風〟をキーワードに構成されており、「逆風を味わうことができるのは、前に進む者だけだ」という言葉が印象的でした。

高校生活は殆どの時間をコロナ禍で過ごした世代。辛く悔しい思いも多かったことでしょう。しかし、仲間と共に精いっぱい乗り越えたからこそ、湧き出た言葉なのだと想像ができました。

今年は恵泉園が事業転換するなど、新生会でも新しい風が吹き始めています。風は時に厳しく、時に優しくもなります。できることならば風に乗るのではなく、私たちが風を起こし、恵風となって前に進む推進力となっていきたいです。

（小野沢美智子）

新　生　第47巻　春　号
発行日　令和六年四月二〇日
編集兼　社会福祉法人新生会
発行人　原　慶子
〒370－3347　群馬県高崎市　中室田町五九八三
電話　〇二七（三七四）一五一一

表紙の写真
河津桜：伊勢崎市みらい公園にて